

平成二十五年 第一期くまもと俳句ポスト

第一期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選一句

蒼き夜に浮かびし城の桜かな

千葉県千葉市 吉野松美

【講評】ソメイヨシノ・ヤマザクラ等約八百本が咲く熊本城は桜の名所。ライトアップされる夜景がまた美しい。掲句は「蒼き夜に」でさらに透明感のある幻想的な雰囲気なたたえる句になった。作者の詩心の高さが窺える。

入選三句

若葉風香る八雲の旧居かな
風薫る洗馬の狸それぞれに
薫風や漱石句碑の五高跡

熊本県熊本市 吉田昭之
長野県小諸市 田中匡子
福岡県福岡市 石橋君子

佳作十句

風光る天正の夢殿下石
不知火のとろろと見ゆる蕉夢庵
蛩見や声若返る一夜かな
葉桜の風すべり込む行幸坂
漱石の旧居の庭のやぶ椿
庭園で育つ筆子の井戸の梅
まくなぎに巻かれて入りぬ八雲旧居
まみえたり八雲旧居の梅雨の雨
緑陰や漱石が居て八雲いて
花曇何を啄む雀の子

熊本県熊本市 田中民明
熊本県熊本市 古木勝行
熊本県熊本市 吉井 巧
熊本県熊本市 田中和明
熊本県熊本市 野口美智子
熊本県熊本市 三浦巡世
福岡県北九州市 中島直四郎
兵庫県西宮市 竹田賢治
熊本県熊本市 中村文三
熊本県熊本市 石田成子

投句総数 一九三句
市外 七七句
市内 一一六句
開函日 平成二十五年六月三十日

平成二十五年度第二期くまもと俳句ポスト

第二期開函

現代俳句協会会員 星永 文夫 選

特選

それからと言ひて漱石秋扇

千葉県旭市

神田順二

【講評】漱石記念館の座敷に坐れば、秋扇をバシッと打ちながら、漱石先生、「さて、それから…」と打ち^ぶそうな、そんな様が浮かぶという。もちろん『それから』は漱石の名作の一、その蘊蓄をさらりと表出したのがいい。

入選

阿蘇の秋スイッチバックの停まる駅
夢見しやA列車の先初夏の風
今脱ぎしごとく八雲の冬帽子

福岡県福岡市
熊本県熊本市
福岡県筑後市

河野涼子
吉井巧
埴生洋美

佳作

四時軒に韻美しく昼の虫
夕立ちに八雲居立ち寄り歴史知る
四時軒の格子窓より秋の雲
金峰や千年樟の大西日
懐かしや八雲の杜の蟬時雨
新緑に涼を求めて水前寺
くまモンはねがいかなえてくれるかな

福岡県春日市
福岡県福岡市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
福岡県福岡市

本田久子
廣重元子
児玉胡餅
田中和明
北里府巳洋
石田人成
廣重堯

投句総数

一〇一句

市外

四六句

市内

五五句

開函日 平成二十五年十月三十一日

平成二十五年度第三期くまもと俳句ポスト

第三期開函

日本伝統俳句協会理事 岩岡 中正 選

特選

山粧ふ肥後の小さき木の葉駅

長崎県諫早市

麻生勝行

【講評】「山粧ふ」は、紅葉で山が彩られることですが、この美しい季語が秋の旅情を高めています。「木の葉駅」という美しいユニークな駅名に注目されたところがすぐれた句です。心もまた紅葉に照り映えながら旅する人を心豊かに描いて、どこかなつかしい郷愁を誘う一句です。

入選

白梅を活けてもてなす旧居かな
いつみてもきれいなみどり熊本城
白梅の白さに朝の明けにけり

熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県玉名郡

野口美智子
阿部舞香
宮中康雄

佳作

つり橋を揺らす谷風球磨の冬
この家も早七つ目ぞ漱石忌
凍つる夜や万物を止める如
亡き父の青春時代想う秋
君の名を心に抱いて歩む春
雪化粧車窓遙かに阿蘇の峰
漱石の片手は猫に冬座敷
福ぶくろ今年の夢がつまつてる
宵闇にくつきり浮かぶ冬の城

熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
愛知県名古屋古屋市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
東京都文京区
熊本県熊本市
熊本県熊本市

岡崎信五
吉井巧
林田秀久
坪井朋子
古澤利恵子
石田人成
小西弘子
近藤加奈
上田千加

投句総数

九七句

市外

三二句

市内

六五句

開函日 平成二十六年二月二十八日

平成二十六年 第四期くまもと俳句ポスト

第四期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

風鈴や漱石先生執筆中

茨城県笠間市

蒲生友紀子

【講評】夏目漱石は明治二十九年から四年余り、第五高等学校（現在の熊本大学）の教師として熊本に滞在した。其の間に六回ほど住居を変えているが、五番目の家が当時のまま現存している。訪れると今にも漱石が現れて来そうな雰囲気漂う。掲句、風鈴の音色を通して遙か夏目漱石の居た時代へタイムスリップした作者の想いが伝わってくる。

入選

蟬時雨天守閣まで沸き上がる
涼しさや八雲旧居の青畳
坪井川渡れば旧居夏木立

熊本県熊本市
東京都新宿区
愛知県愛西市

三隅康資
大山千代子
小川弘

佳作

郷愁の志士の対話や夏座敷
ねんごろな案内の嬉し風薫る
おそろしや八雲旧居の平家蟹
赤レンガ漱石しのぶ新樹光
夏座敷旅の疲れの足くづし
こころざし高き槇の木梅雨晴れ間
くちなしの匂ふ漱石旧居かな
八畳の八雲の書斎新樹光
踏めば鳴る八雲の廊下風涼し
やぶ椿落ちてあたりを明るうす

熊本県合志市
兵庫県姫路市
熊本県熊本市
福岡県宗像市
千葉県千葉市
愛知県岡崎市
長崎県諫早市
兵庫県姫路市
兵庫県姫路市
大阪府熊取町

牛嶋久
小坂佐紀子
川嶋清か
中川博子
宇留野ひとみ
加藤清子
麻生勝行
小坂晶子
小坂文之
阪本博子

投句総数

一五一句

市外

八五句

市内

六六句

開函日 平成二十六年六月三十日

平成二十六年 第五期くまもと俳句ポスト

第五期開函

俳誌「霏霏」主宰 星永 文夫 選

特選

小楠に国是を問ふや蟬時雨

宮崎県都城市 西浦征志

【講評】「小楠」とは横井小楠、熊本が誇る幕末の政治家・思想家のこと。明治新政府の樹立にも関与したが、キリスト教を広めようとしているなどと誤解され、暗殺された。その人の住居が秋津町沼山津（熊本市）に今も残り、四時軒しじけんという。

この句はたぶんそこに立つての作であろう。時に降るほどの蟬時雨の中、今後の日本はどうあるべきか、小楠に問うという、憂国の骨太い大夫ぶりの慨嘆ますらおがいい。

入選

梅雨空に『停車場にて』の佇まい
夜風切る上がり灯籠君が袖
漱石が逃げて来たりし肥後の春

熊本県熊本市 内田哲二
熊本県山鹿市 松尾光浩
福岡県福岡市 栗下純也

佳作

笹とりて茅の輪をくぐる味噌天神
清正の井手の滔々青田風
秋暁の阿蘇にきらめく一番機
清正公の兜に鵬の鬨の声
隼人の血流れし坂に彼岸花
夏の風漱石旧居を通り抜く
城内に良夜の人出ありにけり
秋高し寮歌の聞こゆ記念館
随兵の背中をそつと秋の風
焼酎も好みて無官肥後暮し

熊本県熊本市 中村文三
熊本県熊本市 野崎一雄
長野県小諸市 田中匡子
群馬県高崎市 吉井巧
熊本県宇土市 朝長久典
熊本県熊本市 宇野木邦子
福岡県広川町 山崎綾子
熊本県熊本市 水本艶子
熊本県熊本市 橋本陸太
熊本県熊本市 乾井ふじ子

投句総数 四一一句
市外 八九句
市内 三三二句
開函日 平成二十六年十月三十一日

平成二十七年 第六期くまもと俳句ポスト

第六期開函

日本伝統俳句協会理事 岩岡 中正 選

特選

八雲全集どかと置かれて山眠る 熊本県熊本市 加藤いろは

【講評】

ハーン旧居で見た全集でしうか。生涯に膨大な著作をのこしたハーン。「どかと置かれて」に、ハーンの業績の大きさ重さがよく表現されています。季節はまさに冬。阿蘇の遠嶺もどつしりと眠りに入っています。この冬山のように偉大なハーンの業績に心打たれている様子が、力強く印象的に詠まれています。

わが輩通り賞

二の丸や刀ひつさげ秋まつり 熊本県熊本市 菊池一郎

入選

漱石の驛に降り立つ初しぐれ 熊本県熊本市 田中茗荷
団栗のひとつ入りたる産湯の井 熊本県熊本市 坂口美穂子
峠越え那古井の宿へ息白し 熊本県熊本市 橋本陸太

佳作

帰省子の行くも帰るも阿蘇を越へ 熊本県熊本市 中村頌子
群青に城輝いて露のとう 熊本県熊本市 林良章
咳一つ智衆の背の優しかり 熊本県熊本市 角田雅春
つゆの玉はつばの上ですべり台 熊本県熊本市 熊澤希予
漱石の立ちし教壇黄落期 熊本県熊本市 矢澤幸乃
若水をたつぷり貫う井戸ありて 熊本県熊本市 宮本邦夫
鴨に明け鴨に暮れゆく江津の湖 熊本県熊本市 池田道子
落葉ふるハーン旧居の息づかい 福岡県北九州市 内山雅子
霊木の鳴る一月の七日かな 熊本県玉名市 山村恵子
生けられて水仙清し八雲邸 熊本県熊本市 中山恵實子

投句総数 二二九句

市外 三九句

市内 二〇〇句

開函日 平成二十七年二月二十八日

平成二十七年 第七期くまもと俳句ポスト

第七期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

湖朧汀女の氣配ありにけり

熊本県熊本市

山崎綾子

【講評】

中村汀女は明治三十三年、父斎藤平四郎、母亭の一人娘として江津湖のほとりに生まれた。結婚後は遠くから故郷や親を思いやる俳句を多く作ったので「江津湖の汀女」と云われた。今は生家も残されていないが江津湖畔を訪れると、春の朦朧とした雰囲気も手伝って今にも汀女が佇んで居るように思われたのであろう。「朧」の季題が動かせない。

わが輩通り賞

漱石の所縁の駅舎風薫る

熊本県熊本市

森本尚子

入選

銀杏若葉仰げばせまる武者返し
おしろにはみどりがあふれいきいきと
また一片汀女の湖の薄紅梅

熊本県熊本市 野崎一雄
福岡県久留米市 福田征一
群馬県高崎市 吉井巧

佳作

露草や一口城主の夫は亡き
ジエーンズの教え脈々肥後の夏
草枕辿れば涼し石畳
漱石の降りたる駅舎山笑う
桜散る不開門を降りけり
一と雨に一と雨ごとに七変化
草千里人馬ともどもかぎろへり
球磨川の瀬音激しく明易し
春日さす八雲好みの高机
紫陽花や天守めざして子らの声

熊本県熊本市 木村初子
熊本県大津町 木庭杏子
熊本県熊本市 林田秀久
熊本県熊本市 富士川一裕
熊本県熊本市 寺本こう子
熊本県熊本市 坂本あかり
熊本県熊本市 菊池一郎
奈良県生駒市 佐々木潤子
福岡県広川町 水本艶子
長崎市諫早市 麻生勝行

投句総数

六二二句

市外

三六三句

市内

二五九句

開函日 平成二十七年六月三十日

平成二十七年 第八期くまもと俳句ポスト

第八期開函

俳誌「霏霏」主宰 星永 文夫 選

特選

激動に生きし小楠草の露

熊本県熊本市

児玉胡餅

【講評】

幕末の思想家・政治家であつた横井小楠が、門弟を指導した塾であり、今は記念館となつている四時軒（熊本市東区沼山津）での作であろう。幕府改革に参画し、のち新政府にも招聘されて活躍したが、天主教の布教にかかわつていゝとして暗殺された。そんな時代の激動そのままに、生きた郷土の英偉の生涯を、「草の露」として偲んだ、その直截さがいい。

わが輩通り賞

ここからは吾輩通り初しぐれ

熊本県熊本市

水野つとむ

入選

昭君の琴の音に散る銀杏かな
水鳥や阿蘇よりの水今も澄む
百舌鳴くや老いを背負いて宇土櫓

鹿児島県鹿児島市 青野迦葉
福岡県行橋市 安藤東三子
熊本県熊本市 木村初子

佳作

身に入むやガラシヤ遺愛の手水鉢
汗をふく語部重き万田坑
夏風にハーンの筆音運ばれて
八雲居の秋の風鈴ふいに鳴る
山茶花やルーペで覗くハーンの子
炎天に反りの豊かや城の垣
城影につなぐ手愛しい蟬しぐれ
秋風や夏目先生微笑んで
漱石の遺品に触るる小春かな
四時軒のとんぼに安保の是非を問う

熊本県熊本市 山崎綾子
東京都荒川区 田中和明
福岡県福岡市 白石紗也
広島県大竹市 大前幸子
長崎県諫早市 麻生勝行
福岡県北九州市 大木吉廣
栃木県宇都宮市 阿久津美保
神奈川県横浜市 増田直人
熊本県熊本市 坂口美穂子
熊本県熊本市 内田哲二

投句総数 一三〇六句

市外 九三〇句

市内 三七六句

開函日平成二十七年十二月三十一日

平成二十八年 第九期くまもと俳句ポスト

第九期開函

日本伝統俳句協会理事 岩岡 中正 選

特選

初桜漱石居まで橋二つ

福岡県北九州市

桜井周子

【講評】

熊本城から漱石旧居までの散策だろうか。初桜に誘われるように軽やかに歩く作者。「初桜」と「橋二つ」のとりあわせがごく自然で明るい。春風が吹き川面も見える、ふとした旅心の一句である。

わが輩通り賞

清正の槍のかちどき風光る

熊本県熊本市

野崎一雄

入選

ふるさとの風薫るわが輩通り
春雷や暗がり抜けて天守閣
人は会ひ人は別れて花は葉に

熊本県熊本市 水本麻美
熊本県熊本市 木村初子
熊本県合志市 坂田美代子

佳作

寒行の法蓮華経本妙寺
八雲邸障子の先の肥後椿
桜咲く熊本城の武将隊
ちよん掛け独楽天守飛び越え春の空
城中は風の遊び場藪椿
ゆるゆると礎をめぐりぬ城の春
鶯や旧居に筆子の小さき声
すごいとことんねるぬけててんしゆかく
いにしえを踏みしめながらコートぬぐ
天空を分けてまぶしく山笑う

熊本県熊本市 菊池一郎
東京都千代田区 市村友一
熊本県熊本市 青砥典子
熊本県熊本市 林田秀久
熊本県熊本市 鶴田信吾
兵庫県たつの市 蓮井里子
長崎県諫早市 麻生勝行
熊本県水俣市 森みさ子
埼玉県和光市 竹内恵子
熊本県熊本市 井手洋子

投句総数

七六五句

市外

五三八句

市内

二二七句

開函日 平成二十八年六月三十日

平成二十八年 第十期くまもと俳句ポスト

第十期開函

日本伝統俳句協会評議員 井芹 眞一郎 選

特選

漱石の一言一句竜の玉

熊本県熊本市

加藤いろは

【講評】

一八九六年（明治二九）第五高等学校に英語教師として赴任した夏目漱石は四年余りを熊本で過ごします。その間全俳句の半分かかくを作りますが、むしろ文学作品に力を発揮します。掲句、作者が熊本の漱石の足跡に触れながら、漱石が小説の中に込めた言葉や思いを竜の玉と重ねてうまく共鳴しあって見事です。

わが輩通り賞

まだ癒えぬ地震の火の国冬支度

茨城県取手市

宮河志津子

入選

湧水のゆたかな江津や浮寝鳥
五輪の書成りし岩戸の冬紅葉
爽やかな風ほしいまま大観峰

熊本県熊本市
熊本県熊本市
大分県大分市

野崎一雄
山崎綾子
植山紀子

佳作

秋深し読経ながるる本妙寺
秋空や何処に飛びし城の鯉
紅葉づれる漱石旧居音もなく
冬すみれ見つけ漱石思ひけり
漱石をたどるくまもとあたたかい
山茶花や徳富旧居に年重ね
史跡訪ふ秋雨けぶる田原坂
夏空に高くそびえし天守閣
石鳥居なき参道に秋の風
風鈴の軽やかに舞う旧居かな

熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
熊本県熊本市
沖縄県南風原町
熊本県菊陽町
福岡県中間市
福岡県福岡市
熊本県熊本市
茨城県つくばみらい市

菊池一郎
木村初子
中野しずこ
松本よし枝
赤嶺瑞恵
末次直人
宮崎サカエ
栗下純也
鶴田信吾
北野和良

投句総数

一三九句

市外

六一句

市内

七八句

開函日

平成二十八年十二月三十一日